

# 高石市教育委員会臨時会会議録

(平成 27 年 8 月臨時会)

## 開会及び閉会の年月日時

開 会	平成 27 年 8 月 26 日午後 3 時 1 分
閉 会	平成 27 年 8 月 26 日午後 6 時 16 分

## 会議に出席した者の職及び氏名

委 員	委 員 長 : 佐 野 慶 子 委員長職務代理者 : 西 中 隆 委 員 : 西 村 陽 子 委 員 : 吉 村 文 一 教 育 長 : 藤 原 一 広
事務局職員	教 育 部 長 : 宮 下 勇 樹 教育部理事兼次長 : 細 越 浩 嗣 教育部次長兼教育総務課長 : 上 田 庸 雄 教育指導課長 : 吉 田 種 司 生涯学習課長 : 杉 本 忠 史 たかいし市民文化会館長兼図書館長 : 西 川 浩 二 教育研究センター所長 : 中 野 雅 博 教育総務課長代理兼総務係長 : 山 本 敬 司 教育総務課総務係主事 : 前 川 恭 徳

## 議題及び議事の要旨及び議決事項

### ・ 議案第 1 号 平成 28 年度使用高石市立公立小・中学校教科用図書採択について

教育指導課長	<p>本案は、平成28年度に高石市の児童・生徒が使用する教科書についての採択をいただきたく、教育委員会の議決を求めるものである。</p> <p>小学校の平成28年度使用教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条第1項により、平成27年度使用教科用図書と同一の教科用図書を採択しなければならない。したがって、小学校の平成28年度使用教科用図書については、平成28年度使用小学校教科用図書採択一覧の教科用図書を採択することで承認をいただきたい。</p>
佐野委員長	平成28年度使用小学校教科用図書の採択について異議ないか。
各委員	異議なし。
教育指導課長	<p>中学校については、平成27年度に義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条及び同法施行令第15条第1項により示されている前回採択の教科用図書が使用期間4年目を迎えている。それに伴い、本市においても平成28年度中学校使用教科用図書について採択替えの必要がある。今回の採択替えに際し、個人及び団体より教育委員会、教育委員長、教育長宛て要望書3件、要請書2件、申し入れ1件、声明文1件、お願い26件の計33件が届いている。また、子どもと教育を守る高石市民の会より、2015年度教科書採択についての要望署名として2,107人分の署名が教育長宛てに提出されている。ついては、この場において十分ご審議を賜り、教科用図書の採択を決定していただきたい。</p>
佐野委員長	各委員においては、教育委員会教育指導課並びに高石市立教育研究センターに教科用図書の見本が配架されて以来、各々研究を重ね、理解を

	<p>深めるために時間をかけて準備をしてきた。</p> <p>また、事務局に寄せられてきた、保護者、市民等のご意見も聞かせていただいた。</p> <p>なお、審議に当たっては、各委員と意見を交わしながら採択を決定していきたい。</p>
教育部理事	<p>高石市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会規則に基づき、本年4月より教科用図書の採択事務にとりかかったところである。小・中学校校長2名、保護者2名、教育委員会事務局2名からなる第1回選定委員会を5月29日に開催した。</p> <p>また、2市1町で5月18日に、2市1町教科用図書選定資料作成委員会及び調査委員会を開催し、教科用図書採択に係る調査資料の作成にとりかかり、約1カ月半の調査を経て報告書をまとめていただいた。</p> <p>なお、2市1町教科用図書選定資料作成委員会は、本市と泉大津市、忠岡町の2市1町で設定しており、構成としては、選定資料作成委員に2市1町の中学校教頭及び教育委員会指導主事を任命し、選定資料の作成のための調査員には、同じく2市1町の中学校の教諭を任命した。</p> <p>7月3日に2市1町で、平成28年度使用教科用図書選定資料報告会を開催し、教科用図書選定資料作成委員会の調査に基づき作成された報告書の説明を受けるとともに、第2回選定委員会を開催した。その後、第3回選定委員会を7月15日に開催し、選定資料報告会と、前回の話し合いをもとに検討した。</p> <p>本日は、選定委員長である私と、選定委員会のメンバーである教育指導課長より選定委員会の意見を教育委員会に報告する。また、各委員の質疑についても、私ども2人が回答していきたい。</p>
佐野委員長	<p>これまで委員自身も責任の重大さを認識し、1カ月以上にわたって研究を進めてきた。さらに、選定委員会からの報告も参考にしながら審議を進めていきたいと思うが、いかがか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>最初の種目、中学校国語について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>ポイントになる学習指導要領の国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるという観点に関して、各社ともに工夫がされている。</p> <p>東京書籍においては、各教材の手引きにより、生徒が自ら見通しを持って学習できるように工夫がされている。</p> <p>学校図書については、各学年の冒頭、「この教科書を使うあなたへ」では、学習の進め方がわかりやすく説明されている。</p> <p>三省堂については、各教材の「学びの道しるべ」で目標を示し、基礎、基本を段階的に学ぶことができるように工夫されている。</p> <p>教育出版については、各教材の終わりに、「道しるべ」として、学習内容を振り返り、確かめ深めることができる工夫がされている。</p> <p>光村図書の巻末にある、「文学的な文章を読むために」、「説明的な文章を読むために」では、教材を読む際に着目すべき事項が具体的に示され、学びを深めるように工夫されている。</p>
佐野委員長	<p>各社の古典の取り扱いについてはどうか。</p>
教育指導課長	<p>どの教科書についても、万葉集や竹取物語、徒然草など、有名な古典文学の作品を取り扱い、古典に親しむことができる内容となっている。</p>
佐野委員長	<p>学習指導要領にある、伝統的な言語文化について注目している。生徒が学びやすいように工夫されていると思うところは、東京書籍では141ページのように主な古典の教材にカラーの折り込み資料がある。これは、生徒たちの興味関心を深めるのにすごくいいと思う。</p> <p>また、教育出版では136ページに「四季の便り」というのがあり、す</p>

	ごく写真もきれいで、季節の言葉などが掲載されており、古典と現代とのつながりが意識できるように工夫されている。
吉村委員	国語を勉強していくに当たり、生徒の興味関心を高める工夫がどれぐらいできているかというのが、教科書選定の一つのポイントだと思うが、各委員の意見をお聞かせいただきたい。
西中委員長 職務代理者	<p>どの教科の学習でも、子どもたちが興味関心を持って学習に取り組むことは非常に大事だと思う。</p> <p>そういう点で見ると、東京書籍は基礎編、資料編、本編と、3つの構成になっており、非常によく工夫されていると思う。特に、基礎編で本編の内容を詳しく解説しており、資料編では、本編と関係のある資料・読み物・教材等、子どもたちの興味関心が高められるように、非常に豊富に用意されている。</p> <p>光村図書は、学年の巻末に「学習を広げる」というのがあり、本編と関連のある読み物教材を非常に豊富に取りそろえており、また学習した内容を他の学習や生活に生かすことにより、学習への興味関心を高めている。</p> <p>教育出版は、学年の後半部分に、「学びのチャレンジ」という場が設定されており、ここでは、豊富な資料が載せられている。</p> <p>このように、3社は子どもたちが興味を持つ資料が非常に豊富である。</p>
吉村委員	<p>子どもたちの伝え合う力を高めるという観点から見ると、東京書籍が、例えば、105ページに説得力のある提案をしようということで、グループでプレゼンテーションする題材が取り上げられている。生徒同士が話し合いをしながら、説得力のある話を組み立てたり、資料や機器を活用してわかりやすく説明をしたり、話したりする力が身につくような工夫がされている。</p> <p>光村図書では、3年生の教科書で36ページに、「社会とのかかわりを伝えよう」ということで、相手や目的に応じたスピーチをすることが取り上げられている。ここでも、自分が体験したことや考えたことを人に伝える力をグループで話し合いながら身につける工夫がされている。これらは、本市の生徒につけたい力である表現力にもつながる内容だと思う。</p>
佐野委員長	国語で大切とされている話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、その各領域の学習についてよく配慮され構成された教科書について、意見をいただきたい。
吉村委員	<p>東京書籍の3年生の52ページに、読むこと、話すこと、聞くこと。3年生の75ページに、書くこと、と学習がスムーズにいくように書かれている。</p> <p>また、巻末に「言葉の力一覧」、各領域の「言葉の力」、「学びを支える言葉の力」が提示されており、非常に工夫されている。</p> <p>光村図書の1年生の13ページでは、「言葉に出会うために、小学校から中学校へ」と、中学校でも古文の学習を始めるに当たり、各領域の基礎、基本を確認できる内容で、大変いい構成である。</p> <p>また、1年生の8ページの「学習の見通しを持とう」では、教科と学習のポイントが示されており、学びやすい配慮がされていると感じた。</p>
藤原教育長	本市の生徒に必要な読書習慣を身につけることに注目して見てきたが、東京書籍は282ページに読書活動を楽しもうというところがある。そこでは、読んだ本について感想や考えをまとめたり、クラスの中で紹介する活動を通して本に親しむ工夫がされている。また、284ページの「読書案内、本と出会おう」というところでは、本の表紙を写真で紹介

	<p>するなど、生徒が本を読みたくなるような仕掛けをしている。</p> <p>光村図書は、「読書案内、本の世界を広げよう」で、イラストを入れて、ジャンル別にさまざまな本を紹介したり、本の表紙を写真で紹介したり、生徒の読書意欲を高める工夫がされている。また、読書コラム、「本との出会い」で、有名なアニメの監督、宮崎駿さんのコメントを掲載するなど、より生徒が興味を持つ内容が掲載されていていいと思う。</p>
西村委員	<p>光村図書の1年生の106ページに、米倉斉加年さんの「おとなになれなかった弟たちに」という題材を取り上げてある。これは、戦争がもたらす悲劇を子どもの視点で描いており、平和に対して考えが深められるようになっていて、とても印象的である。</p>
吉村委員	<p>東京書籍の1年生の82ページの碑では、原子爆弾で全滅した中学生の様子を生々しく表現しており、戦争が与えた被害を想定することで、平和への思いを強くすることができると感じた。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>今日の社会は情報化社会であり、メディアがさまざまな情報を提供するなかで、その情報を子どもたちが受け取り、適切に処理して、自分の考えを持っていくことは非常に大事である。</p> <p>東京書籍の1年の186ページ、「ニュースの見方を考えよう」では、子どもたちにニュースを通していろいろな考えさせ、情報を活用する能力を高めようということが非常によくできている。</p> <p>さらに、中等新出漢字は各社とも扱っているが、特に中等新出漢字の扱いが非常に丁寧に記載しており、自学自習をしやすくなっている。</p>
佐野委員長	<p>中学校国語の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に中学校書写について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>各社とも文字を正しく整えて書けるようになるための工夫がされている。</p> <p>各社ごとに特徴を申しあげると、東京書籍では、各教材を調べよう、確かめよう、広げようの3つの段階で構成してあり、生徒が目的意識を持って学習できるように工夫している。また、書写の指導に関して、筆の流れや筆圧が字の濃淡や言葉のリズム、トン、スー、ピタッで表現されており、非常にわかりやすくなっている。</p> <p>学校図書については、試し書き、練習、まとめ書き、硬筆で書くという配置により、生徒が主体的に学習できるような工夫がされている。また、毛筆、硬筆ともに楷書が丁寧に復習できるように手本が解説されてあって、手本が大きく見やすい。特に、書き初めの手本は用紙が丈夫で扱いやすいというのが特徴である。</p> <p>三省堂については、各教材の最初に、考えよう、話し合おうという内容を設け、学習する意味を生徒に気づかせる工夫がされている。三省堂も行書の筆の流れが数字で順を示すなどわかりやすい。</p> <p>教育出版については、各単元を考えよう、生かそう、振り返ろうの3つの段階で構成してあり、学習の内容や手順がわかりやすく示されている。教育出版も筆遣いが写真と言葉でわかりやすく示されており、筆圧も1、2、3の数字で示されているのが特徴である。</p> <p>最後に、光村図書については、各教材の最初に学習のポイントや書き方のポイントを提示し、生徒が主体的に考え、理解を深められる工夫がされている。他に、いろは歌の筆遣いの注意点が赤線と言葉で示されておりわかりやすい。また、筆圧が数字で示されており、視覚的に捉えやすいのが特徴である。</p>
佐野委員長	<p>毛筆を使用する際の学習について注目してみた。特によいと思ったの</p>

	<p>は、東京書籍の30ページに楷書の筆の動きと行書の筆の動きを立体的に捉え、イラストで描かれている。これは動きのパターンをイメージしやすいように提示していて、子どもたちが学習するのに、非常にわかりやすい。</p> <p>三省堂の46ページでは、行書の筆遣いについて、筆の穂先が写真で示してあり、筆圧や画のつながりが意識できるように工夫してある。</p>
吉村委員	<p>東京書籍の86ページの「ノートに書くときに」というところで、書写で学んだ内容を他科の学習に生かすことができる内容があつて非常にいいと思う。</p> <p>学校図書も86ページにも、修学旅行日記の書き方という例が示されており、他の学習活動に生かす工夫がされているのが非常にいい。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>文字を書くことを、いろいろな生活場面で生かしていくことが非常に大事だと思う。そういう視点から見ると、東京書籍の各学年の最後に、「生活を豊かにする文字」というページが設けられている。例えば、1年の42ページに、職場訪問をしようということで、保育園を訪問するときの封筒の書き方、手紙の書き方、また3年では入学願書の書き方、と子どもたちが日常的に必要なとする場面で、それに応じて文字を使って書くことができる内容がある。また、防災訓練や文化祭などを題材にした学習もあり、そういう意味では非常にいい。</p> <p>光村図書についても、60ページから7ページほど使って、手紙の書き方、封筒、はがき、送り状、願書、のし紙、のし袋、原稿用紙と非常に豊富である。</p>
藤原教育長	<p>東京書籍の72ページからの防災訓練に参加しようというところでは、防災や地域の人々とのつながりを大切にする教材が取り上げられている。防災意識を高めて、地域と連携した防災教育を大切にしている本市に合った内容である。</p>
西村委員	<p>東京書籍は、他に比べ少し版が大きく幅が広い。その分、見本も大きく見やすい。</p> <p>どの教科書も最後に常用漢字表があり、楷書と行書の違いが一覧になっているが、東京書籍が版が大きいこともあり、また印刷も濃くて非常に見やすい。卒業してからも持っていたら、いろいろな字を書くときに参考になる。</p>
佐野委員長	<p>中学校書写の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校社会（地理的分野）について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>地理的分野については4社であり、各社とも学習指導要領の日本や世界に関する地理的な見方や考え方を培うことを工夫して構成されている。</p> <p>各社ごとに特徴を申しあげると、東京書籍では、写真や地図などを豊富に示して生徒の関心を深め、地理的な見方や考え方を培うような工夫がされている。写真や資料が豊富である。さらに、教科書を開いたときに見やすい工夫がされている。</p> <p>続いて、教育出版では、本文の学習について適切な写真や見やすい統計資料図表などを掲載し、地理的な見方や考え方を培うような工夫がされている。そのほか、本文の文字が大きく、1行当たりの文字数もゆとりがあり読みやすい。また、本自体の重量も少し軽くなっている。</p> <p>続いて、帝国書院であるが、世界の姿、日本の姿では、導入としてさまざまな写真や図などが紹介され、生徒が関心を持って取り組めるよう工夫されている。各ページの見出しになる写真が非常に大きくて、非常</p>

	<p>にインパクトがあって興味関心を与えている。</p> <p>最後に、日本文教出版であるが、世界の姿、日本の姿では、白地図の作業や地形図の読図も取り入れられ、地理的な見方や考え方が培われる工夫がされている。日本文教出版については、ページ数が多いが、本の厚みが結構薄いので、軽い紙が使われているのが特徴である。また、印刷が美しく、ページの中に適度な余白があって読みやすいという意見もあった。また、さまざまな地域の人々の生活を伝える写真や資料が豊富で、現在の日本や世界の状況を伝える新しいものが多いところが特徴である。</p>
吉村委員	<p>生徒が学習しやすい構成は、段階を経て効果的に学習を進められる教科書である。</p> <p>そういう点で見ると、例えば、東京書籍では、世界の諸地域や、日本の地域の学習では、最初に基本状況を学んでから、次にテーマに沿って学習を進めていき、最後に特色をまとめるという3段階の構成となっていて、非常に教える側も学ぶ側も学習を進めやすい。</p> <p>また、帝国書院では、単元の冒頭にある学習課題というところで、まず生徒に学習の意識づけを行ってから、次に確認しようで内容をまとめ、各地域の学習の後には、学習を振りかえろうで単元の内容を整理するという構成になっていて、非常にわかりやすい構成である。</p> <p>さらに、日本文教出版の教科書では、世界の諸地域、日本の諸地域の学習では、最初に自然環境を押さえ、周囲や地方の特色を学習し、最後に特集ページ、学習のまとめとして、地域的な特色を確実に捉える構成になっており、すぐれた点である。</p>
佐野委員長	<p>学習指導要領の社会（地理的分野）の目標の1番に、日本や世界の地理的事象に対する関心を高めという記載があるが、生徒の興味関心を高めるような資料の取り扱いについての意見はないか。</p>
西村委員	<p>資料の取り扱いについては、東京書籍では地理スキルアップという欄があり、そこでグラフの読み取り方がとても具体的に説明されている。49ページのグラフの読み取り方、157ページの人口ピラミッドの読み取り方など、非常に具体性がありいいと思う。</p> <p>また、資料という意味では、帝国書院は掲載されている地図がとても美しい。</p> <p>次に、日本文教出版は、例えば、4ページに地理プラスアルファというコラム欄があり、そこで、最近の地理に関するトピックスがわかりやすく紹介されている。他に、4ページであれば、世界最大最少の国や、最近のトピックスが取り上げられており、生徒の興味関心を高める工夫がされている。</p>
佐野委員長	<p>地理で、調べたこと、考えたことを表現する力も本市の生徒たちに特に身につけてもらいたいと思っている。</p> <p>東京書籍の111ページに、この章の学習を確認しようというところで、学んだ内容について比較したり、課題や問題点について説明したりする発問が設けられている。</p> <p>また、帝国書院の63ページには、学習を振り返ろうという項目で、確認しよう、説明しようということがあって、地図や図表を用いて知識を確認した後には学習内容を表で自分の意見をまとめる、そして説明することが設けられている。</p> <p>また、日本文教出版の193ページには、学習のまとめとして、地図や写真をもとにして、これまでの学習を振り返った上で、その内容をまとめたり、特色を友だちに説明する活動が学習できるよう工夫されている。</p>

藤原教育長	学習指導要領解説の一部改定に伴う領土に関する記述や自然災害についての各社の記述はどうか。
教育指導課長	領土については、各社とも図や写真を掲載し、現状について適切に記述されている。 また、自然災害や防災に係る内容についても、各社とも適切に記述されているが、特に日本文教出版が他社に比べて取り扱いが多い。
藤原教育長	日本文教出版の148ページに南海トラフの巨大地震やハザードマップなどが取り扱われており、防災教育を進めている本市にとってとてもよい内容である
西中委員長 職務代理者	社会科の学習、特に世界の地理において、川や山の名前を覚えることが重要ではなく、課題を持って時間を決めて課題に取り組み、資料を集めて話し合っ解決していくストーリーが非常に大事であると思う。 そういう視点で見ると、上記を徹底しているのが日本文教出版ではないかと思う。学習課題があり、最終的に学習の確認と活用ということで、見開き2ページで徹底しており、授業者はやりやすいと思う。それから、写真や図表等も非常に効果的に配置しており非常にいいと思う。
佐野委員長	中学校社会（地理的分野）の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校地図について審議を行う。
教育部理事	地図については2社であり、2社とも日本や世界の諸地域の地域的な特色を捉える視点や方法を身につける、身につけさせる内容について工夫されている。 各社の特徴については、東京書籍では、一般図、全体の資料、各州、各地方の基本資料、テーマ資料が掲載され、基本的な地図や資料の読み取りがしやすい。 そのほか、紙質が柔らかくてめくりやすい、紙面が光って見づらくなならないような工夫、それから、全体に落ちついた色調で目に優しくなっている、索引が4列表記になっており字間も広く検索しやすい特徴がある。地図では検索することが、子どもにとって非常に必要な部分である。 帝国書院については、一般図や主題図とともに、グラフやイラスト、写真が豊富に用いられており、各事象など読み取りやすい表記になっている。地域を体感できる地図や世界地図に同緯度の日本地図が多数掲載されているのが特徴である。また、表紙等も含め、非常に長期間使用できるような丈夫な造本になっている。さらに、統計の資料については、国や県の順位ごとに色分けがされており見やすくなっている。
佐野委員長	学習指導要領にも広い視野に立って、社会に対する関心を高めるとある。世界と日本の関係を多面的、多角的に考える各社の工夫についてはいかがか。
教育指導課長	東京書籍では、巻末の統計の部分に世界各国と日本との貿易額を示す欄がある。他の国との経済的な関係があることが理解できるように工夫されていると思う。また、後半の日本全体のページでは、人口、資源、産業、貿易、文化等、さまざまなテーマに関して、世界と日本の関係を示す資料図を掲載してある。 帝国書院では、巻末の統計の世界の主な産物、日本の主な産物について、さまざまな項目のグラフが取り扱われている。また、後半の資料図のページでは、世界と日本の比較、関係等を示すグラフ、統計資料などが取り入れられている。
西中委員長	東京書籍について、一般図、基本資料、テーマ資料の3部に構成され

職務代理者	<p>ており、基本的な学習とより発展した学習ができるように配慮されている。</p> <p>帝国書院も同様であるが、地域と州ごとに基本図、拡大図、資料図、3部構成になっており、そういう地域の特色が非常に効果的に学習できるような配置になっている。</p>
西村委員	<p>資料を活用して、発展的な学習につなげることができる工夫については、各社どうなっているか。</p>
教育指導課長	<p>東京書籍については、66ページにイラストがあり、吹き出しで資料図の着眼点や資料図を用いた学習活動のヒントが示されている。生徒が自ら資料図を活用して学習に取り組めるよう配慮がなされている。</p> <p>一方、帝国書院では89ページの右下に、鉛筆のマークでやってみようというのがあり、こちらのほうでは、探究的な学習課題を示し、学習を深めるように工夫をされている。また、151ページでは、日本と世界との結びつきに関するさまざまな資料図をまとめて掲載している。資料を活用して、日本を世界と比較して説明したり論述したりする力を育てる内容になっている。</p>
藤原教育長	<p>私は資料を活用して表現する力を本市の生徒につけたいと思っている。</p> <p>東京書籍の巻頭にある、この地図の使い方、この地図の活用方法では、資料の見方や地図帳の使い方を生徒にわかりやすく説明しているのがよいと思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>地図は社会科の学習の中で、一つの資料だと思う。資料として活用するという面では、東京書籍が基本資料、テーマ資料と分析して一つの地方について学習し、それにまつわる基本的な資料とテーマとなる資料を1ページごとにつけている。また、索引が非常に見やすいのでいいと思う。</p>
吉村委員	<p>両社とも鳥瞰図は見開きで非常に見やすいと思う。特に東京書籍が立体的に海中まで表示しているページが多く、西之島新島の話もあり、非常に生徒の興味を引く内容でおもしろいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校地図の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校社会（歴史的分野）について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>各社とも学習指導要領の歴史的事項に対する興味関心を高めることを工夫して構成をされている。</p> <p>各社の特徴ですが、東京書籍では、章の初めに、学習する時代の特徴をあらわす図版を示すことにより、興味関心を持つような工夫がされている。さらに、思考力、判断力、表現力を育むということについて、イラストを効果的に用いることで歴史学習に対する関心を持たせ、章ごとのまとめ学習で養うようにできていると考える。</p> <p>続いて、教育出版であるが、章の初めに学習する時代のできごとや資料の図版が示され、興味関心を持てるような工夫がされている。さらに、教育出版については、2枚の写真資料を並べて比較させることで、生徒の思考判断を深め、表現力を高める工夫がされていると考える。</p> <p>続いて、清水書院であるが、各章の導入部分で、その時代のできごとや資料の図版が示され、各時代の特色を理解しやすいように工夫されている。清水書院についても、思考力、表現力等については、巻頭で生徒が話し合いながら各時代のまとめを行う方法を提示し、授業時間ごとにまとめの問いかけが設けられ、そういう力を養う工夫がされていると考える。</p>



	<p>帝国書院について、各時代の初めにあるタイムトラベルでは、イラストを通してその時代の様子が視覚的に理解できるように、生徒が興味関心を持ちやすい工夫がされている。帝国書院についても、各時間ごとに学習の振り返りが記載され、図版を多用することで思考力や表現力を高める工夫がされていると考える。</p> <p>日本文教出版については、各編の最初に、前の時代との比較ができるような図版が示され、歴史的事象の関係地図を掲載することで興味関心を持てる工夫がされている。また、見開きで学習の確認と活用が設けられており、生徒が自分の言葉で表現できるように工夫されているところが思考力、表現力を養うと考える。</p> <p>続いて、自由社であるが、章の初めに、学習するテーマに関係する図版が示され、興味関心を持てるように工夫されている。日本がたどってきた歴史を顧みること、公正な判断とは何かを考えさせ、思考力や表現力を身につけさせる工夫がされている。</p> <p>育鵬社については、海洋国家・日本の歩み、鳥の目、虫の目が各章の初めに設けられ、時代の特徴を表した図版により興味関心を持てるような工夫がされている。各章や巻末のまとめの学習で資料を読み取り、自分の考えを記述させるなど、思考力、判断力、表現力を培うための工夫がされている。</p> <p>最後に、学び舎であるが、学習する時代の特色を表す図版が各ページに大きく示され、興味関心を持つ工夫がされている。学び舎の思考判断表現力については、各章末の振り返る学習のまとめのコーナーで各時代をまとめる活動というところで、そういった力が養われるように工夫されていると考える。</p>
教育指導課長	<p>続いて、学習指導要領の我が国の歴史と世界の動きを関連づけ、大きな流れで捉えることに関しての各社の特徴について、まず東京書籍では、章末と次章の初めのページにまたがる年表には、東アジアや欧米の同時期のできごとが併記されている。日本と世界の歴史を関連づけて学習できるように工夫がされている。</p> <p>教育出版では、章末の学習のまとめと表現で、日本と世界の関連が年表に整理されており、日本と世界の歴史を関連づけて学習できるように工夫されている。</p> <p>清水書院については、地図で見る世界史で、古代から中世における日本と世界との関係や歴史が概観できるようになっている。</p> <p>帝国書院では、巻末の年表に日本、東アジア、主な世界のできごと、日本と海外の交流の様子が併記されている。日本と世界の歴史を関連づけ学習できるように工夫されている。</p> <p>日本文教出版では、地図で見る世界の動きが章の初めに設けられ、各時代の日本と世界の歴史を関連づけて学習できるように工夫がされている。</p> <p>自由社では、各時代の特色や、世界から見た日本の姿を、コラム「もっと知りたい」において捉えやすいように解説をしている。</p> <p>育鵬社では、各時代における日本と世界の歴史を関連づけて学習できるように、「このころ世界は」が設けられるなどの工夫がされている。</p> <p>最後に、学び舎については、その時代の世界の様子を表した世界地図が章の初めに掲載され、日本と世界を関連づけて学習できるように工夫されている。</p>
佐野委員長	<p>日本の歴史については、小学校でも学習する。特に小学校と中学校への接続については、まず、東京書籍の98ページに時代を振り返るページがあり、小学校での学習を振り返りながら中学校の学習を積み上げてい</p>

	<p>く「やってみよう」というところは、とてもいいと思う。</p> <p>次に、帝国書院の20ページ、21ページの見開きでは、タイムトラベルというのがあり、その右側に小学校で学んだ主なできごとが掲載されていて、生徒たちが小学校で勉強したことを思い出せるように工夫されている。</p> <p>次に、日本文教出版の20ページ、21ページでは、小学校で学習した人物というのが随所にある。それにより、この教科書では小学校で学んだ主なできごとをまとめてわかりやすく記載することで、小学校で学習したことを確認した上で、その章の学習に入ることができるのがとてもいいと思う。</p> <p>日本文教出版の50ページと110ページにも連携コーナーがある。小学校で既に習った人物、文化遺産などをその都度確認した上で学習を行うことができるのがとてもいいと思う。</p> <p>育鵬社の9ページに、「歴史人物Q&amp;Aカードをつくろう」で、「皆さんが興味を持った歴史上の人物は」というところがあり、「皆さんが小学校の社会科で学習した人の名前です」というところがある。これにより中学校での歴史の学習が楽しくなればとてもいいと思う。</p>
藤原教育長	<p>社会は1年、2年で地理と歴史を並行して学習することになっていると思うが、東京書籍の分野関連マーク、帝国書院の主な地図資料の取り扱い、日本文教の連携コース、育鵬社の課題学習などが特によく工夫されていて、生徒たちが学びやすいと思う。</p>
吉村委員	<p>神話については当時の物事の考え方や風習を見る上で重要であり、各社全て取り扱っているようであるが、それぞれに何か違いはあるか。</p>
教育部理事	<p>学習指導要領の歴史的分野内容の(2)古代までの日本の取り扱いにおける神話伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰や物の見方などに気づかせるように留意することという内容の取り扱いのことについての質問だと思うが、これについては、各社それぞれの独自の記載があり、全ての教科書会社に生徒が学習できるような記載があり、問題はないと考える。</p>
西村委員	<p>学習する時代が長い流れの中でどのあたりに該当するのかという点では、東京書籍と、教育出版、それから日本文教出版は、全てのページの各見開きページに年表が載っていて、その記載されている箇所がどこに当たるのかがわかるようになっているのがわかりやすいと思う。</p> <p>また、帝国書院は年表が学習を振り返ろうというところにだけ出ており、各章の最初のところに、タイムトラベルというそれぞれの時代を視覚的にわかるような図が載っており、それぞれの時代のイメージを膨らませることができるようになっているのがいいと思う。</p>
吉村委員	<p>基礎の基本を定着させることにおいては、例えば、中世について、東京書籍では95ページにこの時代の特色を捉えようという項があり、日本文教出版では94ページに学習の活用、帝国書院では84ページに中世の特色を説明しようという項があり、特にこのような項目は生徒が復習するのに非常に役立つと思う。</p>
藤原教育長	<p>文書資料や年表資料については、東京書籍と帝国書院が豊富に掲載されていると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>授業の流れが子どもにもわかるし、先生方にもよくわかるという視点では、東京書籍、日本文教出版、教育出版、帝国書院、各社学習課題があり、自分でその課題を解決していく主体的な学習の流れがある程度わかる。中でも、それを徹底しているのが帝国書院ではないかと思う。学習課題を提示し、見開き2ページで徹底し、その中でコンパクトにまとめている。また、最後に確認しよう、説明しようで学習のまとめをして</p>

	おり、帝国書院がそういう意味では非常によくできているのではないかと思う。
吉村委員	帝国書院の「技能をみがく」というコラムでは、調べ学習の方法や系図の書き方、見方、生徒が発表するためのヒントなどが身につくように工夫されていて、非常に見やすいと思う。
西村委員	帝国書院の177ページの「技能をみがく」というコラムでは、歴史を考える際に、現在と過去の立場から考えてみるという内容が取り上げられており、生徒にいろいろなことを多角的に考えるという経験をさせるという意味で、とてもよいと思う。
西中委員長 職務代理者	帝国書院においては、羅針盤のマークの箇所、人権、交流、平和というような、それぞれのテーマに即して関係のあるできごとをコンパクトにまとめており、その一つの学習をした後、それと関係のある、人権に関係のある人物の記述や、その当時非常に努力した人の人物像などがまとめてあり、学習の参考にするのが非常にいいのではないかと思う。
吉村委員	帝国書院の巻末の人物索引では、どんな人物かがすぐわかるように7種類にマークで分類されており、生徒が非常に家庭学習しやすいと思う。
佐野委員長	中学校社会（歴史的分野）の教科用図書は、帝国書院の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校社会（公民的分野）について審議を行う。
教育部理事	<p>公民について、各社とも学習指導要領の現代の社会的事象について多面的、多角的に考え、表現する力を育成するための工夫がされていると考える。</p> <p>東京書籍では、まず「公民にアクセス」で事例を紹介し、「公民にチャレンジ」で考えをまとめたりグループで話し合ったりする活動があり、また、「効率と公正」マーク、やってみようなどで現代社会を捉える見方、考え方を学ぶことができるように工夫されている。全体を通して、基礎的、基本的な知識、概念や技能を習得し、思考力、判断力、表現力を育むための言語活動の充実及び社会参画に関する学習を重視して取り扱っていると考えます。</p> <p>教育出版では、本文に即して設けられている、読み解こうでは、グラフ、写真、地図などの資料の読み取りや、社会の動きを考える工夫がある。また、言葉で伝え合おうでは、表現活動を学べる工夫がある。いわゆる、ディベート、ポスターセッション、プレゼンテーションなどの手法が紹介されており、各章の冒頭に、「初めに」を設け、知識教養を身につけ、真理を求める態度を養うため、何について追求するかということを示しているのが特徴であると考えます。</p> <p>続いて清水書院であるが、もっと知りたい公民、深める公民では、現代の社会的事象などが考察できるよう構成されている。また、具体的なテーマが各編の導入に掲載され、興味関心を引き出すよう工夫されている。社会的事象や今日的課題を追求し、多面的な、あるいは多角的な考察、理論を育てることを重視している。清水書院のみ教科書は少し版が小さくて、「いる・である」調という形で残りの教科書は全て「です・ます」調である。</p> <p>続いて帝国書院であるが、トライアル公民では、意見をまとめたり話し合ったりする題材があり、多面的、多角的に社会の事象を捉えることができるよう工夫されている。身近な作業、活動を通じて社会事象を多面的、多角的に考察し、自らの言葉で表現する力や社会参画への意識を高めることを重視して取り扱っていると考えます。</p>

	<p>続いて日本文教出版であるが、具体的に現代社会の見方や考え方を活用する題材として、チャレンジ公民や、「明日に向かって」が掲載されている。また、学習の確認と活用のコーナーの中に、賛成と反対の対立をする意見が示され、多角的、多面的な見方や考え方を学べるように工夫されている。自分の言葉で表現するための問題解決的な学習活動を重視して取り扱っており、日本文教出版についてもディベートであるとか、レポート等の事例のページが多く設けられていると考える。</p> <p>続いて自由社であるが、課題の探究でレポート、卒業論文をつくろう、ディベートをやってみようのページが設けられるなど、課題解決に向けてまとめる活動があり、考察する力、表現する力を育成することができる。全体的に、家族、郷土、自国を愛するとともに、国際社会の中で信頼と尊敬を得る日本人を育成していくことを重視して取り扱っていると考える。</p> <p>育鵬社については、理解を深めよう、考えようで、現代社会における題材が豊富に取り上げられている。また、章末の学習のまとめでは、生徒が自分の考えを表現する課題があり、理解が深まる工夫がされている。冒頭に人生のものさしを設けて、学習と自らの人生を関連させて考え、基礎的教養を培うことを重視して取り扱っていると考える。</p>
藤原教育長	<p>私は、特に日常生活との関連性に注目して見てみた。</p> <p>東京書籍では、6ページでスーパーマーケットから現代社会を見てみようというところがある。そこでは日常生活の身近な題材から興味関心を持って学習できるような工夫がされていると思う。</p> <p>帝国書院では、141ページのように、社会で活躍する人の声を掲載したり、121ページのようにパン屋の経営者になってみようなどのシミュレーション仕立ての連続コラムが設けられるなど、生徒が社会参画への意識を高めることができるよう配慮されていると思う。</p> <p>日本文教出版では、8ページの日本人サッカー選手や、9ページの各国独自のハンバーガーなど、身近で話題性のある事例が掲載されている。また、120ページのように、編の初めのナビでは新聞記事が多く取り上げられており、身近な生活に関連づけた配慮があると思う。</p> <p>育鵬社では、169ページの私たちの周りのクールジャパンで、身近で話題性のあるテーマや写真を掲載している。また、新聞記事も資料として多く掲載されていていいと思う。</p>
佐野委員長	<p>生徒にとってはよくわかる資料が大切であるが、生徒が学習するうえでわかりやすく進められているページの構成であるとか、配慮されていると思われるのはどれか。</p>
吉村委員	<p>興味を引きわかりやすく進められるという点では、東京書籍が各単元の導入の資料としてページの上に写真を掲載し、さらにその左右には資料で、その下に机マークで毎時間の確認ができるような構成になっている。</p> <p>帝国書院でも、各単元の導入資料としてクローズアップという項目があり、ページも同じように左右には資料や解説、最後には確認しよう、説明しようというのがあり、毎時間の確認ができるようになっている。</p> <p>同じように日本文教出版も各単元の導入資料として、ページの上下に写真や図が豊富に配置されており、また毎時間の学習課題と鍵マークがついた学習のキーワードがあり、さらに最後に確認活用で、学習内容の振り返りができるようになっていて、学習がスムーズにできるように記載されていると思う。</p>
西村委員	<p>公民においても表現する活動が大事であると思うが、この点についてよく工夫されているのは帝国書院である。例えば、97ページで、よりよ</p>

	<p>い町に、自分が住む町のまちづくりを考えようというテーマが取り上げられている。身近なテーマを取り上げて話し合う手法を、例えば、技能をみがくというところで意見を整理してみようということで、話し合う手法を具体的に紹介している。</p> <p>他には、日本文教出版においては、例えば、146ページで読み取ろうということで、図などの資料から特徴や変化があるのはなぜかを考えようというふうに、資料や図を読み取り、そして伝えようというところで話し合おうというふうに、図や資料の読み取りとつなげて表現活動ができるように配慮されていると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>公民的な資質について、選挙年齢も18歳ということもあり、中学校段階で公民的な資質を高めるということが非常に大事になってくる。その点においては、自分の考えを表現し、相手に理解させ、議論をして、結論を得る、というプロセスがこの日本文教出版の72ページのチャレンジ公民というところで、ブレインストーミングを取り入れ、かなりきっちり取り組んでいる。アイデアの収集、保護する価値を基準に分類する、論理的に考える、解決から合意へと、その議論のプロセスを非常に細かく説明し、それをたどっていくことにより、手法が子どもたちに身についていくということで、表現する力を身につける上で非常にいい内容であると思う。</p>
吉村委員	<p>地理と公民とを関連づけて、特に学びやすく工夫されていると思ったのは、帝国書院の地理歴史を振り返るというのが37ページ、87ページにあり、そこで既に学んだ内容を思い出し、地理分野と歴史分野の関連を図る工夫がされているのは非常にいいことであると思う。</p> <p>日本文教出版では、巻頭に公民との出会い、日本の現代史年表、現代の世界の様子というものが2ページから7ページにわたり記載されている。歴史的な分野や地理的分野を関連づけながら学習できるようよく工夫されていると思う。さらに、公民トラベルという項目では、現代の政治などの影響を持つ歴史的な事象を取り上げて、公民学習の理解を深める構成となっていると思う。</p>
佐野委員長	<p>本市では防災教育に非常に力を入れているが、防災についての取り扱いについてはいかがか。</p>
教育部理事	<p>各教科書において、防災についての記述はある。</p> <p>その中で東京書籍、日本文教出版、育鵬社が取り扱っているページ数が多いと思う。</p>
佐野委員長	<p>地球環境問題や情報モラルなどの現代の社会的事象についての取り扱いはいかがか。</p>
教育指導課長	<p>地球環境問題、資源エネルギー問題、情報を活用する力や情報モラルについて、各社とも取り扱っているが、中でも最も多くのページ数を使っているのは日本文教出版である。</p>
藤原教育長	<p>日本文教出版の170ページに、地球環境問題について大きく取り上げているページがある。環境問題や日本の環境対策について考える内容が詳しく、わかりやすく提示されているのが非常によいと思う。</p>
西村委員	<p>自学自習という意味から見ると、日本文教出版は各章の終わりに、学習の整理と活用という1ページにまとめたページがある。例えば、30ページ、118ページ、204ページなど、そこに学習内容と、語句の整理がされており、その中に関連ページの振り返りということで、それぞれページ数が示されており、振り返りながら、既に習った内容を定着させていく工夫も図られていていいと思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>日本文教出版について、50ページに子どもたちに非常に身近な題材として、5バリアフリーの社会を目指してということで、堺市を例に取り</p>

	<p>上げている。豊富な写真で、バリアフリーの必要性、あるいは現状等について、高石市においても、このことを一つのモデルにして調べていくうえで、身近な例として非常にいいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校社会（公民的分野）の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校数学について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>各社とも、学習指導要領の「基礎的な概念や原理・法則についての理解、数学的な表現や処理の仕方の習得については、よく工夫されている。</p> <p>東京書籍について、「例」「たしかめ」で基本的な内容を理解し、問題演習に取り組めるよう構成されている。また、側注の「ちょっと確認」で既習事項の内容を確認できるように工夫されている。計算の進め方が確認しやすいことと間違いの例を示すことで、確実な基礎・基本の定着につながると考える。</p> <p>続いて、大日本図書について、側注の「思い出そう」で、既習の内容を振り返り、基礎的な原理、法則についての理解をしやすくなるよう工夫されている。学習内容や解答例の記載の仕方が生徒にわかりやすい形に工夫され、基礎・基本の定着が図れるようになっている。家庭学習に活用できるように「いろいろな問題」「挑戦しよう」などを設けていることが特徴であると考ええる。</p> <p>続いて、学校図書について、例の模範解答をノートに書く形で表されていたり、数学的な表現や処理の仕方が理解しやすい工夫がされている。解答を導くための注釈やコメントが細かく入り、振り返りとともに解答への手がかりとなり、基礎・基本の定着に生かしやすいと考える。巻末には、豊富な復習問題が用意されており、家庭学習に生かしやすいと考える。</p> <p>続いて、教育出版について、各章末にある「学習のまとめ」では、基礎的・基本的な内容を振り返り、数学的な表現や処理が習得しやすくなるよう工夫されている。章の導入にある「Let's Try」などで、既習事項の確認ができ、数学的な表現や処理の仕方が習得しやすいのが特徴であると考ええる。</p> <p>続いて、啓林館について、例や例題でパターン異なる問題を取り扱い、問いで学習した内容を確認して、基礎的な概念や原理・法則について理解できるように工夫されている。「基本のたしかめ」や「章末問題」「Math Nav iブック」など十分な問題が用意されており、繰り返し練習できるようになっているのが特徴で、別冊に章の導入に当たる部分とまとめに当たる部分があり、予習・復習に生かせる工夫もあると考える。</p> <p>続いて、数研出版について、新しい内容を学ぶ際に「Q」として問題や活動が提示され、意識を高めて基礎的な概念や原理・法則について理解できるように工夫されている。例題の内容が明確で、その解答例も見やすくわかりやすい。章末の練習問題には難易度別になっており、個に応じた取り組み、基礎・基本の定着が図れるようになっているのが特徴であると考ええる。</p> <p>最後に、日本文教出版について、章の最初に身近な事例から考える活動を取り扱い、ねらいを確認して学習に入る構成となっている。また、「例」で考え方や「問い」で学習内容を確認し、基礎的な概念や原理・原則について理解されるように工夫されている。図や表の色の使い方がよく、見やすい工夫がされていると考える。基礎・基本の定着に向け</p>

	て、章で学習した内容や発展的な問題が設けられており、家庭での復習に生かせると考える。巻末の「力をのばそう」では、基礎・基本のA問題と活用のB問題に分かれており、個に応じた課題の配置になっている。
佐野委員長	数学を学習する前、する際に、まず大切なのは基礎・基本の定着であると考えているが、この点についての意見をお願いしたい。
吉村委員	<p>基礎・基本の定着については、繰り返し学習というのが非常に大切だと思うが、その点で、啓林館や数研出版、日本文教出版が同じような手法で書かれている。啓林館について、本文中に、巻末「くり返し練習」、例えば、3年生の95ページ、そこで繰り返し練習できる機会が設けられている。また、それぞれの章末で、「基本のたしかめ」というのがあり、例えば1年生の197ページでは、戻って復習ができるように、学習した項目とそれに関連するページが示されていて、非常に復習しやすいという表示になっている。</p> <p>数研出版に関しても、巻末に「基本問題」や、「確認しよう」という項目があり、繰り返し学習するようになっており、節末の「確かめよう」や巻末の「確認しよう」という項目があり、ここでも戻って学習、復習できるように関連ページが示されていてわかりやすいと思う。</p> <p>さらに、日本文教出版も「基本問題」「くり返し練習」「章のたしかめ」「とりくんでみよう」と、1年生では86、87ページにおいて、段階を追って、繰り返して練習できる機会が設けられているのがいいと思う。また、戻って復習できるように、関連ページが3年生の87ページなどに明示されていて、過去に戻って復習ができやすいのが非常にいいと思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>数学について、日本の子どもは、I E Aの国際的な調査でも比較的上位にあるが、数学が好きかということ、世界的に見て下のほうである。数学がどのようなところで使われているか、役に立っているかという有用性についても、日本の子どもは非常に意識が低い。そういう意味から、数学の楽しさ、また数学がいろんなところで役に立っていることを伝える視点から見ると、東京書籍、啓林館、日本文教出版が工夫されていると思う。</p> <p>東京書籍では、例えば、2乗すると9になる数について考えようというような形で、数の性質を見出して数学的に説明している、あるいは伝え合う活動、いわゆる数学的な活動、考えることの楽しさがページ構成に出ていると感じる。</p> <p>次に、啓林館について、2年の163ページの「みんなで話し合ってみよう」というところで、確率・順列組み合わせという題材で、くじ引きについてみんなで話し合い、数学を楽しむというのが随所にあると思う。</p> <p>日本文教出版についても、1年の209ページや3年の99ページの「見つけよう」「説明しよう」で、数や図形の性質について同様の取り扱いをしていて、算数・数学を楽しく取り組むという点で非常にいいと思う。</p> <p>また、数学は積み上げが大事な教科である。前に積み上げたものが理解できていなければ絶対に次へ進めないのが数学の特性であり、そういう視点から見ると、啓林館の3年の119ページの本文中の「ふりかえり」、既習の学び直しや別冊がついている。別冊M a t h N a v i ブックでは学びをつなげよう、あるいは学び直しなどで小中学校との連絡性にも配慮されているのがいいと思う。</p>
西村委員	小学校との連続性という点について、数研出版では、1年生の4ペー

	<p>ジで「クイックチャージ」というページがあり、そこで算数の復習を行っている。それから、例えば、35ページでは、それまでの既習の箇所を振り返って学び直すなどの配慮がされている。</p> <p>次に、日本文教出版では、小学校とのつながりという点で、1年生の9ページに「正の数と負の数を学ぶ前に」で既習事項を確認している。学習した後のまとめについては、1年生の巻末に「数学マイトライ」、248ページに「算数をふりかえろう」ということで、小学校の既習事項がまとめられており、これは小学校と中学1年生とのつながり、また3年生の教科書の162ページでは、三角形の重心について「深める数学」で高校の内容につながる内容が記載されている。</p>
佐野委員長	<p>数学の授業では、生徒が話し合いをする言語活動が大切であると思う。この点については、啓林館の2年生の81、82ページに「1次関数を利用して身の回りの問題を解決しましょう」というところで「自分のことばで伝えよう」「みんなで話し合って伝えよう」と、考え方や理由を述べる場面が設定されている。多様な答えや解決方法がある問題を取り上げて言語活動を促すよう工夫されているのがいいと思う。</p> <p>次に、日本文教出版の1年生の185ページに「話し合おう」で、その角はどうすれば作図できるのかという非常に親しみやすい文章になっている。みんなで話し合って解決する課題を示して、授業の中で言語活動の充実を図るポイントがわかりやすく示されているのがとてもよくできていると思う。</p>
藤原教育長	<p>実社会や実生活との関連を図る工夫について、日本文教出版は「数学のたんけん」でスロープの勾配を使った福祉の関連や数学史などの生活や情報などに関連した話を掲載している。そこで、数学への興味を高めるとともに、生活への利用や深める数学で実生活と学習内容との関連を図る工夫がされており、生徒のやる気を引き出すことにもつながると思う。</p>
教育指導課長	<p>日本文教出版について、2年生の186ページの「数学研究室」では、読むことにより数学に興味を持たせ、生徒の関心がさらに膨らむように工夫されている。また、同じく2年生の202、203ページの「数学レポートを書こう」では、自分の学んだことを調べてまとめ、レポートを書く方法で学習できるようになっていると選定委員会において意見が出ていた。</p>
教育部理事	<p>授業を指導する教員の立場から申すと、本市においても、近年、初任者、あるいは経験の浅い教員が非常にふえてきている。そういう点では、日本文教出版の詳しい、そして丁寧な解き方の説明は、指導する側にとっても非常に使いやすいく考える。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>数学の学力を高めるにはどんな教科書を使ったらいいかという点では、数学の学習内容とか発展的な学習については、啓林館、東京書籍、日本文教出版、いずれもしっかりしている。また、初任者の先生方にとっての教えやすさについては、日本文教出版が非常に平易に展開されていると思う。そういう意味では、子どもたちが見て自主学習をするという点ではいいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校数学の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校理科について審議を行う。</p>
教育指導課長	<p>理科については、5社である。各社とも、学習指導要領にある自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養うということについて工夫されている。</p>



	<p>主な特徴であるが、東京書籍については、章末の「学びを活かして考えよう」「学んだことをつなげよう」で理解を深め、科学的な見方や考え方を身につけるための工夫がされている。</p> <p>大日本図書では、各単元の終章で、学んだことを探求する活動がある。また、単元末には「読解力問題」として、科学的な見方や考え方を問う内容が出題されている。</p> <p>学校図書については、「思い出してみよう」で既習事項を振り返り、また「例題」と「問」では、計算練習ができるなど、基礎・基本の定着ができる工夫がされている。</p> <p>教育出版の「活用しよう」の部分では、身の回りの現象について既習事項を使い科学的に説明する活動が取り扱われている。</p> <p>啓林館については、各章の導入ページで既習事項を振り返り、後の学習につなげている。また「活用してみよう」や「ぶれいくtime」では、学んだ知識や科学的な概念を日常生活や社会に活用できるように工夫されている。また、啓林館の教科書については、数学と同様、2つの別冊という形で「マイノート」がついており、理解を深めるために活用できるように工夫されていると思う。</p>
佐野委員長	理科を学習する上で実験・観察がとても大切だと考えるが、この点についてご意見をお願いしたい。
西村委員	理科を好きになるには、各実験が楽しいと思うことが大事であると思うが、東京書籍の2年生の273ページ以下に「学びを広げようー自由研究」というページがある。273ページから279ページまでは、実験器具の基本的な操作方法、それから実験結果をまとめるグラフの書き方などが非常に詳しく具体的に書かれている。実験などをするとき、ここを見ながら進めていくことができるので、大変便利であると思う。
吉村委員	教育出版の1年生の2ページから7ページにかけて、水溶液を触ったりなめたりせずに内容の違いを確認するにはどうしたらいいかなど、非常に学習の進め方等がいいと思う。こういう新たな疑問から探求とレポートをまとめるという方法が例示されていると思う。また、51ページに、観察・実験の前に別枠のクエスチョンマークにおいて、結果を分析、解析するという力が身につくように課題が明示されており、さらに結果と考察に分けて示されていて、流れが非常にわかりやすいと思う。
西中委員長 職務代理者	<p>観察・実験が非常に大事であると思う。理科の学力テストの結果の公表を見ると、実験・観察をしっかりやっていたところは学力が高いという相関があると思う。</p> <p>啓林館では、まず実験する場合には「予想をしてみよう」ということで、必ず仮説を立て、予想をして、きちんと実験していくという、そのステップが非常に細かく、ステップ1、ステップ2、ステップ3ということで、段階を追って展開されている。「考えてみよう」「話し合ってみよう」で設定されて、その結果考察するというように、非常に段階がきちんと明示されている。また、分冊のマイノートについては、実験の補助的な働きをしていると思うが、この中で実験レポートの書き方が、ある程度活字ではなくて文字で書かれて、途中まで実験の流れが書かれているので、非常に理科の嫌いな子どもでもそれをもとにして実験観察をしていくという、発達段階に応じて実験観察による探求学習が展開されやすいと思う。</p>
佐野委員長	基礎・基本の定着という観点からはいかがか。
藤原教育長	基礎・基本の定着については、教育出版では章ごとに設けてある「要点をチェック」という、例えば、3年生の37ページや、単元末の「要点と重要用語の整理」で、本文の参照ページを示しており、復習しやすく

	<p>なっていると思う。それと、単元末の「基礎・基本問題」では、各章ごとに分けて確認問題が設けられており、基礎・基本が定着する工夫がされていると思う。学年の巻末には、「学年末総合問題」や「中学校総合問題」が設けられており、既習内容を繰り返し復習できるように工夫されていると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>同様のことが啓林館で言えると思うが、2年生の242ページの「学習のまとめ」では各単元の内容が項目を挙げてコンパクトにまとめられており非常にいいと思う。</p> <p>それから、別冊マイノートについて、青色のシートを利用し、用語や基礎・基本を確認していく。これは繰り返し用語や、基本的・基礎的な内容について、確認をしていく非常におもしろい企画であると思う。</p> <p>また「ステップアップ」や、「基本のチェック」という項目を設け、中学校の学年末の総合問題というような形でまとめてあり、非常に学習したことがまとまりを持って次の段階なり、次の学年に進んでいくという教科書構成になっているので、非常にいいと思う。</p>
佐野委員長	<p>学習指導要領にある日常生活や社会との関連についての記載はいかがか。</p>
教育部理事	<p>これについては、各社ともに工夫されているが、記載数で見ると、東京書籍が119カ所、啓林館が122カ所で、この2社が充実していると考えている。</p> <p>その内容については、東京書籍では、例えば、2年生の265ページのコラムの「科学でGO!」、あるいは2年生の225ページの「レッツトライ」など、理科の学習内容と日常生活や社会とのつながりが掲げられている。また、2年生の巻頭の「科学と人の物語」、2年生の巻末の「未来への宿題」、3年生の58ページの「日本の科学」では、科学技術について取り上げられ、理科を学ぶことの意義や有用性が実感できるように工夫されている。</p> <p>啓林館では、例えば、2年生の161ページの「活用してみよう」や、2年生の39ページにあるコラムの「部活ラボ」などでは、理科の学習内容と日常生活や社会とのつながりが取り上げられている。また、2年生の79ページ等にある「ぶれいくtime」、あるいは2年の233ページの「日本の技」などでは、科学技術や科学者の功績、学習内容にかかわる職業などについて取り上げ、理科を学ぶことの意義や有用性が実感できるように工夫されている。</p> <p>理科については、計算でつまずくことが多いと思うが、その中で、選定委員会等の保護者の中で、計算問題について取り扱っている教科書で、東京書籍などは、例題や考え方、練習、確認というようなステップで展開されていて、つまずきやすい計算についての基礎・基本の定着に役立つようにつくられているという意見があった。</p> <p>それから、啓林館のマイノートでは、つまずきやすい計算についても例題が示されて、マイノートで習熟を図れるように工夫されているという意見があった。</p>
西村委員	<p>教科書の見やすさというのも大事だと思うが、啓林館について、一つは、1年生と2年生、3年生の教科書を比べてみると、1年生のほうが少し文字が大きくなっている。それから、教科書の構成として、本文が見開きの真ん中の部分にまとめられており、その左右の端に写真や図が記載されている。学習の課題を大きなクエスチョンマークで最初に提示してあり、考えてみようなどでは色を変えて少し目立つように配置されている。また、男子生徒と女子生徒のキャラクターが随所に出てきて、吹き出しで疑問とか考え方のヒントなどが記載されていて、親しみやす</p>

	い表現になっていると思う。
西中委員長 職務代理者	啓林館について、実験・観察等の結果と考察はステップごとに表示しており、その後「私のレポート」ということで、子どもたちが結果・考察という形でまとめたものが書かれているので、自分の書いたものと比べて検討できるということでも、非常に学習がしやすいと思う。
吉村委員	同じく啓林館について、1年生の108ページの「広がる世界、堆積物から過去の津波にせまる」、3年生の240ページの「ぶれいく t i m e」に、防災・減災における自助・共助・公助というコラムがある。南海トラフ巨大地震で被害を受ける本市としても、防災教育と一致する内容でもあり、他教科とのつながりにも非常にいいと思う。 また、3年生の17ページの「遺伝の規則性と遺伝子」では、古典的にメンデルの遺伝の法則から京大山中教授のi P S細胞の話まで非常に興味を引く内容が記載されているのがよいと思う。ただ、最近の医学は、メンデルの遺伝の法則に従わない事例が多数あることがわかってきており、学習指導要領ではまだ記載されていないので仕方がないと思うが、ただ、形質が変化することがあるということは教えるを書いてあるので、その辺のところも徐々に載ってくると思う。
藤原教育長	啓林館の別冊マイノートについて、生徒が自分で考えて取り組む内容が多く取り上げられているのがとてもよいと思う。
佐野委員長	中学校理科の教科用図書は、啓林館の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校音楽（一般）について審議を行う。
教育部理事	音楽（一般）について、教科用図書が2社である。2社ともに学習指導要領の音楽を愛好する心情を育て、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う内容が取り扱われている。 教育出版では、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすように3つのテーマに沿って教材を配置し、歌唱、合唱の学習が深まるような工夫がされている。 教育芸術社については、創作や鑑賞の領域では、作品の構成をわかりやすく図式化し、解説し、考えを記入できるようなワークシートがあり、交流を通して学習を深めるよう工夫されている。また、表現及び鑑賞の領域がバランスよく構成され、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすことができる内容となっている。
藤原教育長	教育出版について、写真やイラストが多く配置も見やすく、視覚的に興味・関心を持ちやすいと思う。また、よく知られている人物写真が多く、作者の思いなども盛り込まれていて、資料も豊富に用いられておりいいと思う。 一方、教育芸術社について、日本の伝統的な文化や郷土の音楽について理解を深めることができるように配慮されている。また、アジア地域や諸外国、民族の特徴を感じ、豊富な情報量で興味を持つことができるよう配慮されていていいと思う。
吉村委員	教育出版の2・3の上の62ページで、コンピューター音楽、曲をつくる、歌う、演奏する、鑑賞というのがそれぞれの場面で、コンピューターを活用したイラスト入りで解説しているページがあり、生徒たちにとっては非常に興味を引く内容であると思う。 次に、最近の音楽の配信サービスなどで問題になる著作権についても触れられているのは、社会教育としても非常にいい面であると思う。 また、歌唱の指導という面に関して、教育出版では「L e t ' s S i n g !」という項目で、1年生で取り扱いがあり、特に当市の合唱な

	<p>どの指導に関して、有効な表現であると思う。</p> <p>また、教育芸術社について、「My Voice!」として1年、2年、3年と生徒の成長に応じた内容で取り扱いがあり、各学年を通じて指導しやすい内容になっていると思う。</p>
西村委員	<p>教育芸術社の「My Voice!」というところで、全学年で合唱、歌声の出し方について大きく紙面を割き、しかもイラスト入りで記載されている。歌唱をするときの呼吸の仕方、声の響かせ方などについても、わかりやすく大変詳しく書いてあると思う。</p> <p>それから、合唱のときの指揮についても、全学年で取り上げられており、音楽をいかに豊かに表現するのかということ、詳しく説明されている。高石では、各中学校で非常に合唱についても指導を熱心に行っており、合唱コンクールなども活発に行われているので、教育芸術社の「My Voice!」の記載はとても実践的に役に立つと思う。</p>
吉村委員	<p>教育芸術社の音楽2・3の下の46ページに、「ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう」というページがあるが、音楽をより身近なものとして興味を引くという内容としては、最近の生徒には向いていると感じる。</p> <p>さらに、音楽の1の6ページに、ビンゴゲームやリズムゲームという項目があり、音符や休符、記号などを楽しく身につける工夫がされていると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>2社の教科書を比べたときに、表紙裏、あるいは目次に至るいろいろな写真が、教育出版のほうは個性的であるが、教育芸術社のほうは子どもたちに親しみやすい展開になっていると思う。</p> <p>また、教育芸術社では、目次が非常によくできていると思う。何をそこで学ぶのかを端的に表現している。</p> <p>それから、日本の古典的・伝統的なもの、例えば、尺八や、琴、箏曲などの扱いも非常に丁寧である。また日本の民謡、全国にあるいろいろな民謡等についても適宜取り上げられており、そういうものに親しむという意味で、全体的な構成が非常にいいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校音楽（一般）の教科用図書は、教育芸術社の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校音楽（器楽）について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>音楽の器楽についても、教科用図書では音楽一般と同じで2社となっている。それぞれの出版社の特徴であるが、教育出版では、12ページにあるように、リコーダー、ギター、和楽器等で挿絵や写真が使われ、自主的に学習できるように工夫されている。非常に多くの写真と詳しい説明文が掲載されており、取り扱っている楽曲数も多いと考える。</p> <p>続いて、教育芸術社では、4ページにあるリコーダー、20ページにギター、42ページから和楽器等で、挿絵や写真を使いわかりやすく解説され、基礎・基本が習得できるよう配慮されている。こちらも、写真や図が適量であり、ポイントを押さえた説明でわかりやすいと考える。器楽の教育芸術社の例えば21ページでは、教育出版と違うところであるが、それぞれギターと、三味線や太鼓などという見出しの部分が英語表記になっている。これは、いわゆる外国にルーツを持つ子どもへの配慮にもつながるかと考えている。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>中学校音楽（一般）で教育芸術社を採択したが、器楽と揃える必要はないのか。</p>
教育部理事	<p>特に揃える必要はない。</p>
藤原教育長	<p>まず、教育出版では、巻頭の「With My Heart 音楽は</p>

	<p>メッセージ」というところで、写真で演奏者を取り上げ、最初に興味づけを行っておりいいと思う。</p> <p>一方、教育芸術社は、各楽器の演奏者による解説など、写真や図が見やすく提示してある。「音楽学習MAP」には、それぞれの教材で何を学習することができるのかがわかりやすく示されている。また、イラストの吹き出しで学習のポイントが示され、生徒の興味・関心が高められるよう工夫されていていいと思う。</p>
西村委員	<p>巻末に、どちらも音符や記号についてまとめているが、教育芸術社のほうの音楽の約束のほうがコンパクトに、いろんな記号や、速度に関するもの、演奏の仕方に関するものということで網羅され、一覧によりわかりやすく記載されていると思う。生徒が符号の意味を忘れたときや復習するときには、役に立つと思う。</p>
吉村委員	<p>教育芸術社の53ページからの「アンサンブルセミナー」という項目では、グループで各々のパートを決めて、主旋からリズム楽器などを分けて、生徒が主体的にグループを作りアンサンブルに取り組めるという工夫がされていて、アンサンブルを結成するに当たって非常に役立つ内容であると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>教育芸術社について、各楽器とも楽器の構造とか奏法の違いを系統立てて学習できるように配列されているのが非常にいいと思う。また、特にリコーダーからギター、古楽器、アンサンブルへと進められているが、特に、リコーダーのところでは、ページ数を割いて、レッスン1、レッスン2、レッスン3まで非常に丁寧に扱っている。中学校に入って最初にリコーダーを手にすると思うが、非常によくわかるように構成されていていいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校音楽（器楽）の教科用図書は、教育芸術社の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校美術について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>美術については3社である。各社とも、学習指導要領にある表現するなどの造形的な創造活動の基礎的能力を育てる工夫がされている。</p> <p>まず、開隆堂について、作品の制作過程を丁寧に解説して、発想、構想、表現が連続して学習できるように工夫されている。生徒の作業中の写真が多く掲載され、制作するイメージがわきやすくなっている。作品の説明が簡潔でわかりやすいのが特徴である。</p> <p>続いて、光村図書について、各題材に目標がはっきり示されており、造形的な創造活動の基礎的能力が育まれるよう工夫されている。表現するページが4ページ構成で、題材を設けてテーマに沿った図版や活動例のレイアウトは、学習の流れが見えるように工夫されていると考える。</p> <p>最後に、日本文教出版について、基礎的な創造活動をバランスよく取り扱い、単に知識、技術の習得だけでなく、創造の過程から思考・感性などの力が育まれるよう工夫されている。学年ごとに、出会い、深まり、探求というテーマを持たせ、3年間で発展的に美術とかかわらせようとする意図が感じられると考える。</p>
藤原教育長	<p>学習指導要領の美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことについて注目したが、日本文教出版は「日本美術の展開と世界の交流」という題で、年表はわかりやすく、日本から西洋への影響に触れて学習できるなど、美術の歴史や伝統文化について理解が深まるよう配慮されていていいと思う。</p> <p>開隆堂は、美術2・3の48、49ページで、桃山時代から江戸時代にかけての琳派の作品が特集されており、いいと思う。</p>

吉村委員	<p>そういう観点からは、やっぱり美術館に行くのが一番で、実物を見ると迫力があっていいと思うが、特に光村図書の23ページの風神雷神図の屏風を開いて立てると本物のように見えて、迫力があり、実物を見たいと思う気になると思う。</p> <p>また、日本文教出版でも、美術の2・3の下で金剛力士像の修復について書いており、日本の伝統文化の伝統的な工芸ということについて非常に興味を持って継承する心を育てるには適していると思う。</p> <p>同じく日本文教出版で、美術の2・3上の26ページの富嶽三十六景では、和紙で作られていて、実際の版画のように原寸大ということで、非常に出来映えがいいと思う。このようなリアリティーがあれば、日本伝統の版画・浮世絵というものを正しく理解するのに、非常に役に立つと感じた。</p>
西村委員	<p>生徒に、美術に親しんでもらう、作品をつくらうという意欲をかき立てるとい点では、各社取り上げているが、日本文教出版が、生徒作品をより多く取り上げていると思う。生徒作品の下に、赤い枠で「作者の言葉」ということで、作品をつくった生徒の言葉を紹介しているところが、とても生徒が作品を作るときに、参考にしたり親しみを持てると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>日本文教出版と開隆堂を比べたときに、どちらも非常に見やすい図版になっている。特に日本文教出版では、各題材ごとにほとんど見開きになっており、ポイントと参照があり、そのポイントでは作品を制作するに当たっての大事な視点を必ずまとめてある。ポイントと参照により、その作品、制作に関連するページについて示しているので、非常に丁寧な展開ができると思う。</p> <p>また、非常に作品が豊富で、作品との出会いは、この制作意欲を喚起する上で非常にいいと思う。</p>
佐野委員長	<p>中学校美術の教科用図書は、日本文教出版の教科用図書を採択することに異議ないか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>
佐野委員長	<p>次に、中学校保健体育について審議を行う。</p>
教育部理事	<p>保健体育については、4社であり、4社とも学習指導要領の運動に親しむ資質や能力を育て、実践につながる内容の取り扱いについて工夫がされている。</p> <p>まず、東京書籍について、運動やスポーツに関する写真や読み物を通して興味・関心を高め、運動の楽しさや体力の向上を目指した内容が取り扱われている。教科書の判がA B判で、さらに保健編と体育編が学年別に構成されているのが特徴である。</p> <p>続いて、大日本図書について、章末資料で、運動やスポーツの実践例が掲載され、生涯にわたって運動に親しむ意欲を持たせる内容が扱われている。ここもA B判とすることで、右と左のところに補助資料が大きく掲載されて明るい印象がある。生徒が興味を持ちやすいように視覚的な効果を狙っているつくりになっていると考える。</p> <p>続いて、大修館書店について、コラムや事例で身近な事例が紹介され、運動やスポーツに親しみ、実践につながるよう工夫されている。大修館書店はB 5判で、体育編と保健編に順に構成されていて、薄くて軽量、持ち運びがしやすいつくりであると考えられる。</p> <p>最後に、学研教育について、スポーツにかかわる人物やスポーツを支える側の事例などが示され、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していけるよう工夫されている。この教科用図書もB 5判で、保健編、体育編の順に構成されている。図、イラスト、グラフ、本文のバラ</p>

	<p>ンスがよく、シンプルですが、授業者が活用しやすく、画一的な授業展開にならないよう工夫がされていると考える。</p>
藤原教育長	<p>スポーツを通じて身につけてほしい、互いに協力し自己の責任を果たすなどの社会性を育てることに注目すると、東京書籍の96ページの資料や97ページの読み物では、フェアプレーやチーム力について触れている。ルールやマナーを尊重することの大切さを取り上げているのがよいと思う。</p> <p>大日本図書では、40ページの人々を結びつけるスポーツというところで、身近な運動会からオリンピック・パラリンピックに至るまで、スポーツの持つ社会的な役割が理解できるようになっている。</p> <p>学研教育みらいでは、150ページにあるスポーツにおけるルールとマナー、フェアプレーの精神、チームワークなど、スポーツの社会性についての記述があり、実例を用いてその重要性が理解できるようになっていていいと思う。</p>
西村委員	<p>保健体育においても、生徒が自ら考えて、自主的な学習をすることが大事だと思うが、その点について、東京書籍の24ページの「やってみよう」という欄があり、具体的な場面でどのように考えるのかを問いかける箇所がある。</p> <p>学研教育みらいについて、108ページに、たばこやお酒、薬物に手を出さないためにというページがあり、その中で、危険な心理状態になったときどうするのかという具体的な場面を想定させ、考えさせる工夫がされている。</p> <p>また、防災について71ページに、自然災害から身を守るためにということ、具体的な場面を想定してどのように行動するのかを学ぶところが非常に充実していると思う。</p>
吉村委員	<p>学研教育みらいについて、全体的にイラストと実写真や研究写真をうまく組み合わせて、非常に興味を引くレイアウトでわかりやすいと思う。</p> <p>また、60ページの交通事故の現状と原因の一番下の欄外の「情報サブリ」では、今、社会的にも問題になっている自転車が車両の一部であり、道路交通法が適用されることが明記されていて、危険防止に役立つと思う。</p> <p>また、93ページのコラムで、コンピューター・スマートフォン依存症や睡眠不足による成長障害について記載がある。これは、現代の子どもの問題になっており、良質な睡眠が丈夫な体をつくること、つまり大体10時、11時に寝て、2、3時間で一番深い睡眠が得られて、そのときに成長ホルモンがよく出る。だから、寝る子は育つことを昔の人は知っていたわけで、そういうことを、コンピューター、スマートフォンにより阻害されると、やはり成長障害につながるなど、現代社会の健康問題が随所に取り上げられており、自らの健康安全について理解できるように工夫されていると思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>学研教育みらいの「ウォームアップ」は非常に特色があり、例えば、応急手当の意義と基本という学習に入るとき、倒れている場面があり、あなたはどうしますかや、あるいは、休養、睡眠、健康のところでは、自分のその状態について、まずチェックしてから学習に入る。そこでエクササイズがあり活用しようと、学習の流れが、教える側にとっても非常にわかりやすく、また子どもたちが自学自習をする上でも、見開きを見たら学習する内容が非常によくわかる。</p> <p>例えば、事故の問題でも非常に現実的な問題として取り上げたり、あるいはインターネット依存症の問題や、日常生活にかかわる問題を丁寧</p>

	に扱っているのが非常にいいと思う。
佐野委員長	中学校保健体育の教科用図書は、学研教育みらいの教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校技術・家庭（技術分野）について審議を行う。
教育部理事	<p>技術・家庭の技術分野の教科用図書については3社であり、3社とも学習指導要領のものづくりなどの実践的、体験的学習を通じた基礎的・基本的な知識及び技術の習得について工夫がされている。</p> <p>まず、東京書籍について、各単元に「目標」「始めの活動」「まとめの活動」があり、基礎的・基本的な知識、技術が習得できるように工夫されている。各領域とも、豊富なイラスト、写真、資料と説明の文章が一目で見てわかるようにレイアウトされている。東京書籍だけワイド判になっている。</p> <p>続いて、教育図書について、ものづくりなどの体験的な内容が多く、実習例に写真や図版を用い、作業手順や基礎的・基本的な知識及び技術が身につくよう工夫されている。それぞれ興味・関心を喚起するような実習例を中心に、写真やイラストを多く用いて製作過程を主とした構成になっている。特に実習題材のページは、実習の工程を非常に俯瞰的に把握できるようにページの上段に流れが示されているのが工夫されているところである。</p> <p>最後に、開隆堂について、知る・できる・考えるの流れで次の学習につなげることができるよう構成されている。また、ものづくりなどの実践的、体験的な学習活動が多くあり、基礎的・基本的な知識が理解できるよう工夫されている。各領域の初めには、歴史について触れられている場面もあり、生徒の興味・関心を喚起するような構成になっているのが特徴である。</p>
藤原教育長	<p>伝統的な技術、伝統文化について注目して見てみたが、東京書籍の163ページには、日本の伝統野菜が紹介されているなど、伝統文化を継承していく意義や伝統技術を発展させていくことを理解できるよう配慮されていていいと思う。</p> <p>開隆堂は、7ページにガイダンスで今も生きる先人の技術、9ページに活躍している日本の伝統技術を取り上げている。また、AからDの単元の初めに技術の歴史年表をつけており、先人たちの知恵や技術の発展について理解できるよう工夫されていていいと思う。</p>
西村委員	東京書籍について、各編ごとに実習例というページがあり、写真、イラスト、説明などがバランスよくまとめられていて、生徒が実習しやすい工夫がされている。こういうものがあれば、卒業した後も手元に教科書を残しておいて、日常の生活で使える場面が多くあると思う。
西中委員長 職務代理者	1つのものを製作するプロセスについて、例えば、東京書籍の41ページに非常に丁寧に書かれており、それに必要な基礎的スキルが非常にページ数を割いて展開している。これを見ると、最初に計画した作品がこういうスキルを習得することによってでき上がるということを非常に丁寧に展開している。また、ポイントというものが設けてあり、それに必要なワンポイント、大事なことをそこで示唆するというような形になっている。また、十字マークで、作業で特に注意すべき安全衛生について記述しているところが非常にいいと思う。
吉村委員	東京書籍について、判が大きく、全体的に写真や図、解説がわかりやすいと思う。他に、付録について、巻末に防災手帳があり、防災意識の高まり、学習した後も各家庭で役に立つ。高石市では各家庭にほぼこういう内容のものは行き渡っているが、なくしてしまったときに教科書に



	あることは非常にいいことであると思う。
佐野委員長	中学校技術・家庭（技術分野）の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校技術・家庭（家庭分野）について審議を行う。
教育部理事	<p>家庭分野についても3社であり、3社とも学習指導要領の実践的、体験的な学習活動について工夫がされている。</p> <p>まず、東京書籍について、写真やイラストで活動の流れが示され、実践的、体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるよう工夫されている。特に、調理実習についての例が豊富で、主題材では火加減が視覚的にわかる配慮がされている、あるいは写真や説明によって食品の化学的変化が見てわかるため、調理を化学的な視点からも捉えることができるような工夫がされている。</p> <p>続いて、教育図書について、調理実習や被服制作の資料にイラストや写真が豊富にあり、基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるよう工夫されている。ここは、調理実習題材が主食、主菜、副菜、白物、間食に分かれて掲載されているために、組み合わせることによってバランスのよい食事の献立を立てやすい工夫がされている。</p> <p>最後に、開隆堂について、写真やイラストで実習の流れがわかるように示されて、実践的、体験的な学習活動を通して家庭科の基礎的・基本的な知識及び技能が習得できるよう工夫されている。調理実習例について、調理工程でかかる時間が示されているため、組み合わせることで調理の手順を考える際に見通しが立てやすいという特徴があると思う。</p>
藤原教育長	<p>学習指導要領の目標にある生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得について、東京書籍の120ページでの基礎技能で、写真やイラストを用いて基礎的・基本的な技能が習得できるよう工夫されており、いいと思う。</p> <p>開隆堂について、例えば93ページで、各節ごとの「ふり返り」で学習内容について自己評価を行い、基礎・基本の定着ができるようになっているところがいいと思う。</p>
佐野委員長	東京書籍の各編の最後に「学習をふり返ろう」「学習したことを確かめよう」「生活に生かそう」というところがある。学校で学んだことを生活に生かしていく、このことは非常にこの教科では大切だと思うので、東京書籍が非常によくできていると思う。
吉村委員	東京書籍について、実際の説明が写真、図、説明の配置が非常によく、目で追いやさず感じがする。また、調理の参考例では、この東京書籍がカード式で、1ページに3種類のメニューが載っており、メニューが豊富に提示されていて、家庭でも実践できる調理例が多いので、学習したことを日常生活で活用しやすいと思う。
西中委員長 職務代理者	東京書籍について、それぞれの教材、題材の順序が自立から共生ということで、非常にうまく構成されている。また、それぞれの題材で「考えよう」で、目標、何を考えるのかをまず冒頭で示し、それから学習が展開し、題材によっては「調べてみよう」「やってみよう」というようなことで、非常に課題設定がしっかりしており、その課題設定に従って学習ができ、まとめも非常にしっかりしている。また、レポートの例も非常に充実しており、子どもたちにとって学習しやすいと思う。
佐野委員長	中学校技術・家庭（家庭分野）の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	次に、中学校外国語英語について審議を行う。

<p>教育部理事</p>	<p>外国語については6社であり、6社とも学習指導要領の言語や文化に対する理解を深め、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことのコミュニケーション能力の基礎を養うことが工夫されている。</p> <p>まず、東京書籍のNEW HORIZONの教科書で、3年間の中で出てくる新出語について1,315語あり、6社を比較して、本文の量についてはやや少な目と考える。その中で、コミュニケーション能力の基礎を養えるように習得、活用、発信の3部から構成されていて、基礎学力の定着を図る構成になっている。各課、これをユニットといますが、ユニットに4領域、読む、聞く、話す、書くの活動がバランスよく配置され、技能別に練習しながら、その中で統合された力がつくように工夫されている。</p> <p>続いて、開隆堂のSUNSHINEについては、3年間に出てくる新出語句は926語で、本文の量は6社比較して適切な量と考える。特徴は、提示、練習、産出の順に配置されて、基本文を対話形式で示すことで、生徒にとって親しみやすい内容となっている。導入に力点が置かれており、文法になれ、理解した後に練習が積み重ねられるような工夫がされている。SUNSHINEだけは、先に文法の練習を徹底し、その後本文を学習するという形で、構成が右側のページに本文が載っている特徴がある。</p> <p>続いて、学校図書のTOTAL ENGLISHについては、3年間の新出語が1,473語で、本文の量は適切な量と考える。まず、大きな課と普通のレッスン等に分かれており、大きな課をチャプターといい、チャプターで初めに目標と言語材料を明記し、学ぶ内容が示されているので、学習の見通しを立てるのに非常に効果的であると考え。4技能、いわゆる読み、聞く、話す、書くのバランスをよく習得できるようにレッスンごとの読む題材の活動と聞く、話す、書く活動が設定されている。さらに、各課に復習、レビューが設けられており、学習の定着を図る工夫がされている。</p> <p>続いて、三省堂のNEW CROWNについては、3年間の新出語句が1,146語で、本文の量は適切な量と考える。各課、これはレッスンで示されており、学習のめあてが提示されて、学ぶ意欲を喚起し、基礎を習得する「GET」、活用する「USE」で構成されている。USEでは、発表と会話に類型化した活動を積み重ね、4技能をバランスよく発展・定着できるように工夫されている。</p> <p>続いて、教育出版のONE WORLDについては、3年間の新出語句が1,159語、本文の量は6社の中ではやや多目で、各課レッスンは基礎から積み上げる形となっており、「HOP」「STEP」のパートで4技能をバランスよく学習し、「JUMP」の課題活動の中で、具体的にガイドブックの作成や卒業スピーチ等を取り上げてコミュニケーション能力のさらなる定着を図ることができるように工夫されている。</p> <p>最後に、光村図書のCOLUMBUS21については、3年間の新出語句が1,284語で、本文の量は6社の中で最も多く、ボリューム感が多いと感じる。各課をユニットといい、初めに全体を聞いて想像させ、興味を持たせ、同時に学習の目標を提示することで、学習に入りやすいように工夫がされている。各課のユニットの練習問題「Try It!」の中で、4技能をバランスよく練習し、段階的に基礎的知識の習得ができるような言語活動が工夫されているのが特徴である。</p>
<p>藤原教育長</p>	<p>各教科書とも、生徒の興味や関心を引く題材を取り上げていると思う。</p> <p>まず、東京書籍について、1年生で身近な出来事に関する題材、2年</p>

	<p>生で職場体験学習やホームステイなどの活動を通じて視野を広げる題材、3年生で現代社会の課題や世界に発信される日本文化について考えを深める題材などが取り上げられて、1年、2年、3年と発達の段階に応じた工夫がされていてよいと思う。</p> <p>開隆堂については、環境や平和問題、多様な文化の理解を各学年で取り上げており、学年が進むにつれてその内容もより深くなっている。</p> <p>学校図書については、1年生の88ページで日本と外国の生活、2年生の22ページで日本と外国の文化の違い、3年生の58ページの国際協力に貢献した日本人の話を取り上げている。</p> <p>三省堂については、1年生の28ページで学校生活、2年生の82ページで将来の夢、3年生の38ページで平和学習など、身近な題材が取り上げられている。</p>
佐野委員長	<p>英語については、従前より学んだ言語が話せないという課題がある。英語の学習では、実際に使える英語として学習内容を身につけることが大切であると思っているが、この点についての意見をいただきたい。</p>
西村委員	<p>実際に授業の中でペアワークやグループワークなどを通して会話力を身につけることが必要になると思う。これを取り上げているものとして、まず東京書籍については、例えば、1年生の72ページの「Daily Scene」で電話の会話を取り上げている。2年生の92ページの「Presentation」で町の紹介をするという題材を取り上げられている。こういったものを使い、ペアワーク、グループワークができるようになってきている。</p> <p>次に、開隆堂については、2年生の72ページの「スピーチをしよう」で、こんな人になりたいというスピーチをするページがある。</p> <p>最後に、学校図書については、3年生の16ページの「Action！」でどうしたらいいかということ質問をしたり答えたりする、それぞれペアやグループで会話をしたりする活動が取り上げられている。</p>
吉村委員	<p>英語を身につけるために、繰り返し学習をし、学習内容の定着を行うことが大切であると思う。特に東京書籍のNEW HORIZONでは、2年生の35ページの本文の右側にある基本練習や、ユニットの終わりの40ページにある「Activity」においては、学習した内容を繰り返し練習できるようになっており、学習内容の定着を図れるように工夫されていると思う。</p> <p>また、開隆堂のSUNSHINEにおいても、1年生の122ページの「英語のしくみ」、巻末の見開きにある「できるようになったことリスト」などで、学習事項の理解度や定着が確認できるように工夫されているのがよいと思う。</p>
西中委員長 職務代理者	<p>英語について、グローバル社会や国際社会で役に立つことになるので、国際理解が英語教育の一つの重要な目標であると思う。外国の文化だけを学ぶのではなく、英語を使い日本の文化を外国に発信していく。そういう視点から見ると、東京書籍が、例えば3年生の8ページの浮世絵や、2年生の80ページの「Rakugo in English」にある発展途上国でつくられた作品がある。また、作物等を取引するシステムのフェアトレードに、いろいろな国の製品等が出てきて、その中で日本のいろいろなものも取り扱っており、国際協調、国際理解ということでページ数を割いているのが非常にいいと思う。</p>
西村委員	<p>使える英語について、ある程度の語彙や表現力、表現方法、これのストックを持っていることが大切であると思う。その点、東京書籍については、「Tool Box」といい、例えば、3年生の23ページの「Tool Box」でいろいろな機関をあらわす表現が示されている。ま</p>

	た、3年生の132ページの「Bonus Word Box」で、いろんな語彙や表現が豊富にまとめられたり、随所で示されたりしており、こういった表現に接することで、生徒が必要に応じて使えるような工夫がされていると思う。
吉村委員	本市では、教育課程の特例を受け、小学校1年生から英語を学習している。そういう面からいうと、東京書籍の1年生の4ページの「Hi, English!」で、小学校の外国語活動で慣れ親しんだ単語や表現を聞いたり話したりする活動を、12ページのUnitゼロでは、文字を取り上げて、音と文字の理解を段階的に深めていくようになっており、小学校から中学校に入ったときに、円滑な接続が得られると思う。
西中委員長 職務代理者	東京書籍について、特に英語は学習したいいろんな文型等について繰り返し練習しないとなかなか習得できない。そういう意味では、まとめの練習、例えば、46ページの過去分詞、また巻末に基本文型の一覧とが出ており、ここで今まで習得した文型について提示されているので、そこで復習ができる。また、3年生の95ページでは、学び方コーナーで辞書の使い方についてもいろいろ学習できるので、自学自習に非常にいいと思う。
佐野委員長	中学校外国語（英語）の教科用図書は、東京書籍の教科用図書を採択することに異議ないか。
各委員	異議なし。
佐野委員長	<p>以上で、中学校の全種目を決定した。</p> <p>中学校国語、東京書籍「新編新しい国語」、中学校書写、東京書籍「新編新しい書写」、中学校社会（地理的分野）、日本文教出版「中学社会地理的分野」、中学校地図、東京書籍「新編新しい社会地図」、中学校社会（歴史的分野）、帝国書院「社会科中学校の歴史日本の歩みと世界の動き」、中学校社会（公民的分野）、日本文教出版「中学社会公民的分野」、中学校数学、日本文教出版「中学数学」、中学校理科、新興出版社啓林館「未来へひろがるサイエンスマイノート」、中学校音楽（一般）、教育芸術社「中学生の音楽」、中学校音楽（器楽合奏）、教育芸術社「中学生の器楽」、中学校美術、日本文教出版「美術」、中学校保健体育、学研教育みらい「新・中学保健体育」、中学校技術・家庭（技術分野）、東京書籍「新編新しい技術・家庭技術分野未来を創るTechnology」、中学校技術・家庭（家庭分野）、東京書籍「新編新しい技術・家庭家庭分野自立と共生を目指して」、中学校外国語（英語）、東京書籍「NEW HORIZON English Course」。</p> <p>以上が、平成28年度使用中学校教科用図書である。</p>
採決	可決